

本資料は2021年7月29日にチューリッヒで発表されたメディアリリースの翻訳版（要旨）です

クレディ・スイス、2021年第2四半期のCET1比率は13.7%、税引前利益は8億1,300万スイス・フランと公表

「クレディ・スイスは、アルケゴスおよびサプライチェーン・ファイナンス・ファンドの事案により提起された問題に対処するためにとった断固たる行動の恩恵を受け、回復力のある第2四半期の業績および強固な自己資本比率を示しました。当行はこの2つの出来事を非常に重く受け止め、正しい教訓を得る決意です。当行は、RWAおよびレバレッジ・エクスポージャーを大幅に削減し、インベストメント・バンク部門のプライム・サービス事業のリスク・プロファイルを改善するとともに、当行全体のリスク能力を強化しました。当行の基本的な業績は引き続き堅調で、ウェルス・マネジメントおよびアセット・マネジメントの事業における運用資産残高が記録的な水準に達したことは経常手数料収益の堅調な伸びも支えています。リスクに対するより保守的なアプローチと、2020年第2四半期に比べて不利な取引環境のもと、インベストメント・バンク部門における基本的な業績は回復力を示すものでした。特にアジア太平洋部門におけるウェルス・マネジメント部門ならびにアセット・マネジメント部門およびインベストメント・バンク部門においては人材およびテクノロジーへの投資を継続しています。今後数ヶ月の間に、当行は、この先数年間の指針となる長期ビジョンの策定を継続します。当行の目標は明確です。リスク文化のさらなる強化を目指す一方で、個人、法人および機関投資家のすべてのお客さまに最高レベルのサービスとアドバイスを提供し、株主の皆さまのために価値を創造することに引き続き尽力していきます。」

クレディ・スイス・グループ AG 最高経営責任者（CEO） トーマス・ゴットシュタイン

クレディ・スイス・グループ公表財務指標 (特に指定のない限り、百万スイス・フラン)	2021年 第2四半期	2021年 第1四半期	2020年 第2四半期	2020年 第2四半期比	2021年 上半期	2020年 上半期	2020年上 半期比
純収益	5,103	7,574	6,194	(18)%	12,677	11,970	6%
うち、ウェルス・マネジメント部門関連	3,609	3,882	3,548	2%	7,491	7,314	2%
うち、インベストメント・バンク部門 (百万米ドル)	1,761	3,888	2,981	(41)%	5,649	5,136	10%
貸倒引当金	(25)	4,394	296	-	4,369	864	-
営業費用合計	4,315	3,937	4,347	(1)%	8,252	8,354	(1)%
税引前利益 / (損失)	813	(757)	1,551	(48)%	56	2,752	(98)%
株主帰属純利益 / (損失)	253	(252)	1,162	(78)%	1	2,476	(100)%
株主帰属有形株主資本利益率	2.6%	(2.6)%	11.0%	-	0.0%	12.0%	-
CET1比率	13.7%	12.2%	12.5%	-	13.7%	12.5%	-
ティア1レバレッジ比率¹	6.0%	5.5%	6.2%	-	6.0%	6.2%	-
大幅な変動があった項目およびアルケゴスの 事案*を除いた調整後の主な財務指標 (百万スイス・フラン)	2021年 第2四半期	2021年 第1四半期	2020年 第2四半期	2020年 第2四半期比	2021年 上半期	2020年 上半期	2020年上 半期比
純収益	5,226	7,430	6,060	(14)%	12,656	11,568	9%
税引前利益	1,313	3,596	1,481	(11)%	4,909	2,427	102%

2021 年第 2 四半期のハイライト

リスク選好がより保守的になり、2020 年第 2 四半期と比較して取引環境は悪化しながらも堅調な財務パフォーマンスを達成

- **公表した株主帰属純利益**は 2 億 5,300 万スイス・フラン、また公表した税引前利益は 8 億 1,300 万スイス・フラン。調整後税引前利益（大幅な変動があった項目およびアルケゴス*を除く）は 13 億スイス・フラン（2020 年第 2 四半期比 11% 減）。
- **調整後純収益**（大幅な変動があった項目およびアルケゴス*を除く）は、アセット・マネジメントの収益が増加しスイス・ユニバーサル・バンク部門の収益が安定したものの、アジア太平洋部門、インターナショナル・ウェルス・マネジメント部門およびインベストメント・バンク部門の収益が減少したことにより相殺され、前年同期比で 14% 減少しました。
- **調整後営業費用**（大幅な変動があった項目およびアルケゴス*を除く）は、主に変動報酬の減少により、前年同期比で 6% 減少しました。
- アルケゴスおよびサプライチェーン・ファイナンス・ファンド（SCFF）の事案を受け、**2021 年第 2 四半期の強化されたリスク・アプローチへ包括的に注力し**、インベストメント・バンク部門の RWA およびレバレッジ・エクスポージャーを、2021 年第 1 四半期末の水準と比較して、それぞれ 200 億米ドルおよび 410 億米ドルまで大幅に削減しました。
- **アルケゴスに関連する税引前の追加損失**は 6 億 5,300 万米ドル（5 億 9,400 万スイス・フラン）。取締役会により委託された独立した外部調査報告書を公表（別途メディアリリース参照）。
- 2021 年 8 月前半に予定している第 4 回清算金の交付手続により、投資家が合計で約 59 億米ドルを受け取ることで、SCFF における**投資家への現金還元**に注力します。

強固な資本基盤および運用資産の増加

- **強固な資本基盤（CET1 比率 13.7%）**は、強制転換社債（MCN）の発行、オールファンズ・グループの IPO による影響と当行の投資を 10% 未満に削減し、インベストメント・バンク部門における RWA の積極的な削減、およびアルケゴスに関連する一時的な RWA 上乘せの撤廃による恩恵を受けました。**ティア 1 レバレッジ比率は 6.0% に上昇し、CET1 レバレッジ比率は 4.2% となりました。**
- **共同取締役会および務執行役員会の長期的な展望および中期計画**は、今年末までに最終決定される見込みです。
- **計上したグループ運用資産**は、2021 年第 2 四半期末時点で 1.6 兆スイス・フランを超えました。スイス・ユニバーサル・バンク部門およびアセット・マネジメント部門における新規純資産を伴う **47 億スイス・フランの純資産流出**は、主に積極的なリスク低減によるアジア太平洋部門の純資産流出、およびインターナショナル・ウェルス・マネジメント部門のわずかな純資産流出によって相殺されました。
- **計上したウェルス・マネジメント部門の運用資産は 8,530 億スイス・フラン**であり、経常手数料は前年同期比で 19% 増加しました。顧客取引残高はより高い水準となります。

2021 年上半期のハイライト

- 上半期は困難な状況にあり、アルケゴス関連の損失は総額で 50 億スイス・フランとなり、リスクに対しより保守的なアプローチをとりながらも、**税引前利益は 5,600 万スイス・フランのプラスとなりました。これは、当行のフランチャイズの根底にある回復力を示しています。**
- **調整後税引前利益（大幅な変動があった項目およびアルケゴス*を除く）**は、すべての部門における調整後税引前利益（大幅な変動があった項目およびアルケゴス*を除く）の成長により、**前年同期比で 2 倍の 49 億スイス・フラン**となりました。CECL 関連の貸倒引当金における純戻入は 2 億 2,700 万スイス・

フランとなり、調整後営業費用（大幅な変動があった項目およびアルケゴス*を除く）は5%減少しました。

- **調整後純収益（大幅な変動があった項目およびアルケゴス*を除く）は、アジア太平洋部門、インベストメント・バンク部門、およびアセット・マネジメント部門の基本的な²成長に牽引され、前年同期比で9%増の127億スイス・フランとなりました。**
- **当グループ全体の新規純資産は、2020年上半期における156億スイス・フランと比較して、237億スイス・フラン。**2021年上半期におけるウェルス・マネジメント事業の**新規純資産**は、2020年上半期の72億スイス・フランと比較して71億スイス・フランとなりました。

見通し

全体として、2021年の今後の各四半期の市場規模は、2020年の高水準に比べ、より標準的な水準になると引き続き予想しています。さらに、進行中の当グループの事業戦略の見直しの過程においては、リスクに対してより保守的なアプローチを継続的に採用する予定です。

ウェルス・マネジメントについては、運用資産合計の増加ならびにマンデートの需要の拡大および幅広く安定した純利息収入により、経常手数料収益は引き続き恩恵を受けると予想しています。インベストメント・バンクについては、第3四半期は市場活動の通常の季節的な鈍化の影響に加えて、プライム・サービス事業の縮小によるさらなる影響も受けると予想されます。M&Aアドバイザリーのパイプラインは好調であり、前年同期比で引き続き顕著に強化されており、また、ECMおよびレバレッジド・ファイナンスにわたるパイプラインも強固です。

世界経済の継続的な回復により、CECL会計基準に基づき、昨年COVID-19危機の初期に積み立てられた貸倒引当金の一部を引き続き戻し入れることができる可能性があります。しかし、第1四半期末に述べた通り、今年の残余期間の実効税率は大幅に上昇したままであると予想しています。2021年の第2四半期に自己資本比率を大幅に強化したことを受け、引き続き、13%以上のCET1比率、および4%以上のCET1レバレッジ比率で運営していく方針です。

アルケゴスおよびサプライチェーン・ファイナンス・ファンドに関する最新情報

取締役会は、アルケゴスの事案およびサプライチェーン・ファイナンス・ファンドの事案について、外部主導による2件の調査を依頼しており、いずれも特別委員会が監督しました。サプライチェーン・ファイナンス・ファンドの事案に関する調査は現在も継続中であり、2021年第3四半期に完了する予定です。本日、当グループは、アルケゴスの事案に関する独立した調査の結果を発表し、取締役会の特別委員会が委託した外部主導の報告書の全文を公表しました。調査結果の概要は、2021年7月29日中央ヨーロッパ夏時間6時45分に発表されたメディアリリースに別途記載されています。

アルケゴスに対する独立した調査の結果から得られた主な所見には、以下の不備が含まれています。

- プライム・サービス事業における第1および第2のディフェンスラインによる効果的なリスク管理
- 第1および第2のディフェンスラインを通じたリスクの上申および過剰なリスクの抑制
- 第1および第2のディフェンスラインにおける監督責任の遂行
- リスク軽減策および強化策の優先順位付け（ダイナミック・マーージニングを含む）

ただし、調査の結果、これは業務担当者およびリスク担当者による不正または違法行為ではなく、担当者による悪意ある行動の結果でもなかったことが判明しました。また、リスク管理および手続きの構造上の欠陥

または既存のリスクシステムが重要なリスクおよび関連する懸念事項を特定するために十分に機能していなかったことに起因するものでもありませんでした。

報告書の独立した作成者が提示した主な提言のうち、当グループは以下の項目について完了または完了に向けて進行中です。

- プライム・サービス事業を含むインベストメント・バンク部門およびリスク所管責任者の人事措置
- リスク管理を改善するための追加リソースへの投資
- 役割、責任、説明責任の明確化
- クレディ・スイスをリスクから守るための既存のプロセスの強化
- カウンターパーティのリスク選好および管理の再調査
- リスク情報の質およびアクセスの改善
- 全体を展望、予測しリスク文化をさらに改善する

残存するアルケゴスの長期および短期ポジションは6月上旬にすべて解消され、クレディ・スイスは解雇および金銭的ペナルティを含む適切な人事関連の措置をとりました。アルケゴスがクレディ・スイスの税引前利益に与えた財務上の影響は、2021年第2四半期に5億9,400万スイス・フラン（6億5,300万米ドル）、2021年上半年期では50億スイス・フランに達しました。さらに、クレディ・スイスは、様々な第三者に対して請求を行う権利を留保しています。

サプライチェーン・ファイナンス・ファンドの事案については、クレディ・スイス・アセット・マネジメントは引き続き、投資家の皆様への現金還元と回収額の最大化を最優先に考えています。8月前半に予定されている約4億米ドルの第4回分配金を考慮に入れると、投資家の皆様への分配金は約59億米ドルとなります。これまでに分配された現金およびファンドに残存する現金を合わせると、このキャッシュ・ポジションは、ファンドの停止時点での純資産額の66%にあたる約66億米ドルに相当します。回収がより複雑で時間がかかると予想される3つの「注力分野」³については、一部の債務者との間で、回収を最大化するためのリストラクチャリングについて交渉を進めているほか、60名を超える社内外の専門家からなる専門チームを設置し、資産回収の最大化と迅速化に取り組んでいます。非注力分野については全体で90%超の回収を見込んでいます⁴。最後に、保険に関してはグリーンシル・バンクの協力を得て、保険金の請求に引き続き取り組んでいます。

2021年第2四半期の業績と評価

実効税率が非常に高水準だった影響を受け、当グループは、**2021年第2四半期において8億1,300万スイス・フランの税引前利益および2億5,300万スイス・フランの株主帰属純利益**を計上しました。アルケゴスの損失の税務上の認識が一部に留まったことにより、当グループは、今年の残りの期間についても税率が非常に高い状況が続くと見込んでいます。当グループはまた、1億6,800万スイス・フランのCECL関連の戻入れを含む、2,500万スイス・フランの貸倒引当金戻入れを計上しました。これは主に、マクロ経済の見通しが引き続き改善していることを反映したものでした。公表した業績には、アルケゴスに関する6億5,300万米ドル（5億9,400万スイス・フラン）の税引前損失およびオールファンズ・グループに対する持分投資に関する2億9,800万スイス・フランの税引前利益が含まれています。2020年第2四半期が堅調だったことおよび当グループのリスクに対するより保守的なアプローチを勘案すると、基本的な事業業績⁵は堅調でした。**大幅な変動があった項目およびアルケゴス*の影響を除いた調整後純収益は52億スイス・フラン（前年同期比14%減）、大幅な変動があった項目およびアルケゴス*の影響を除いた調整後税引前利益は13億スイス・フラン（11%減）**でした。

ウェルス・マネジメント関連事業は、36億スイス・フラン（前年同期比2%増）の純収益を計上しました。大幅な変動があった項目*の影響を除いた調整後ベースでは、収益は5%の減少でした。運用資産および顧客事業取引高が増加したこと、ならびにマニデート浸透率が2020年第2四半期の28%から30%に増加したことに恩恵を受け、経常手数料収益は15%増と堅調でした。これは、顧客取引が2020年第2四半期と比較して減少したことおよびグローバル・トレーディング・ソリューションズ（GTS）の収益が減少したことによるトランザクション・ベースおよびパフォーマンス・ベースの収益の16%の減少により相殺されました。また、当四半期における新規純貸出金額が横ばいから減少であったこと、MCN発行費用および米ドル金利の低下による影響を受け、純利息収益は前年同期比で5%減少しました。アセット・マネジメントの純収益業績は、主に運用手数料の増加により前年同期比12%増と特に堅調でした。

インベストメント・バンク部門は、非常に好調だった2020年第2四半期と比較してトレーディング環境が悪化し、顧客取引が低迷し、またリスクおよび資本管理に対する当グループのより保守的なアプローチを反映してRWAおよびレバレッジ・エクスポージャーの削減に関する意図的な措置が取られたにもかかわらず、底堅い基本的な業績⁶を達成しました。純収益は、前年同期比で41%減の18億米ドルでした。インベストメント・バンク部門の業績には、アルケゴスに関する6億5,300万米ドル（5億9,400万スイス・フラン）の税引前損失が含まれていました。アルケゴス*を除いた調整後税引前利益に対する影響は貸倒引当金戻入れにより一部相殺されたものの、アルケゴス*を除いた調整後純収益は、23%の減少でした。債券販売およびトレーディングの収益が前年同期比33%減、アルケゴス*を除いた株式販売およびトレーディングの収益が17%減⁷、キャピタル・マーケットの収益が6%減（2020年第2四半期におけるレバレッジド・ファイナンスの時価評価による利益⁸を除くと23%増）、アドバイザーの収益が34%減でした。GTS、インベストメント・バンク部門とウェルス・マネジメント事業の協働による収益は減少しました。これは一部には、インベストメント・バンク部門におけるより保守的なリスク選好および2020年第2四半期が非常に好調だったことによるものでした。見通しの観点では、当グループのM&Aアドバイザーのパイプラインは順調に、特に前年同期比では非常に伸びており、ECMおよびレバレッジド・ファイナンスのパイプラインも堅調です。

当グループの**営業費用**は、前年同期比1%減の43億スイス・フランでした。これは、アルケゴスに関する損失の影響による未払変動報酬の減少を反映したもので、大幅な変動があった項目およびアルケゴス*の影響を除いた調整後営業費用は6%の減少でした。

当グループは、中国本土におけるフランチャイズの構築、および特にアジア太平洋地域におけるプライベート・バンキングのカバレッジ・チームの拡大を含む、ウェルス・マネジメントに対する**主要な事業投資**を引き続き実行しました。当グループは、インベストメント・バンク部門の技術および人材へ投資し、国際的なウェルス・マネジメントの中間市場アドバイザー能力をさらに強化し、ブラジル、インド、ロシアおよび中東といった急成長する市場において当グループのウェルス・マネジメントの足場を固めるための投資を継続しています。さらに、当グループは、リテールおよび高所得層顧客向けのSUBデジタル・プラットフォームであるCSX、ならびに超富裕層および富裕層向けのフランチャイズに対する投資を継続しています。これは、**ITプラットフォームの強化への投資**、クラウド技術の構築、サイバーセキュリティの強化、ならびにデジタル化および自動化の推進に加えて行われています。

2021年第2四半期末現在、当グループは合計1.63兆スイス・フラン（前四半期比2%増）と高水準の**運用資産**を計上しました。マニデート浸透率は、2020年第2四半期の28%から増加して30%となり、経常手数料収益を支えました。当グループの純資産流出額は、2020年第2四半期が98億スイス・フラン、2021年第1四半期が284億スイス・フランであったのに対し、2021年第2四半期は47億スイス・フランとなりました。ウェルス・マネジメント事業全般にわたりいくつかの個別事例で流出がありました。さらに、流出の一部は特

にアジア太平洋地域におけるリスク軽減措置に起因している可能性があります。

当グループは自己資本比率を大幅に改善し、**CET1 比率**は2021年第1四半期末現在が12.2%であったのに対し、2021年第2四半期末現在は13.7%、**CET1 レバレッジ比率**は2021年第1四半期末現在が3.8%であったのに対し、2021年第2四半期末現在は4.2%でした。当グループのCET1比率およびCET1レバレッジ比率は、MCNの発行、オールファンズ・グループのIPOによる影響と当グループの投資を10%未満に減少させたこと、アルケゴスに関する一時的なRWAの追加の撤廃ならびにインベストメント・バンク部門におけるRWAおよびレバレッジ・エクスポージャーの積極的な削減による恩恵を受けました。2021年第2四半期において、インベストメント・バンク部門のRWA削減は200億米ドル、インベストメント・バンク部門のレバレッジ・エクスポージャーの削減は410億米ドルでした。

2021年上半期の業績と評価

アルケゴスの事案に関連して50億スイス・フランの多額の損失を計上したものの、当行の基本的な業績が両四半期において堅調に推移したことにより、2021年上半期の株主帰属純利益は、わずかですが100万スイス・フランとなりました。これは、特にインベストメント・バンク部門における重要なリスク軽減アプローチを考慮しても、当行のフランチャイズの基本的な回復力を示しています。当行の2021年上半期の貸倒引当金は44億スイス・フランで、これにはアルケゴスに関する損失および（主に、マクロ経済の見通しが引き続き改善したことを反映したCECL関連の調整による）CECL関連の貸倒引当金純戻入額2億2,700万スイス・フランが含まれています。

2021年上半期において、**大幅な変動があった項目およびアルケゴスの影響を除いた調整後純収益**は、アジア太平洋部門、インベストメント・バンク部門およびアセット・マネジメント部門における収益の増加、スイス・ユニバーサル・バンク部門における安定した収益、ならびにインターナショナル・ウェルス・マネジメント部門における収益の減少により、前年同期比で9%増加し、**127億スイス・フラン**となりました。

2021年上半期において、**大幅な変動があった項目およびアルケゴスの影響を除いた調整後税引前利益**は、前年同期比で倍増し、**49億スイス・フラン**となりました。これは、大幅な変動があった項目およびアルケゴスの影響を除いた調整後税引前利益が全部門において増加したことによるもので、またCECL関連の貸倒引当金純戻入額および（主に変動報酬計上額の減少による）大幅な変動があった項目およびアルケゴスの影響を除いた調整後営業費用の減少（5%減）を反映しています。

ウェルス・マネジメント関連事業は、75億スイス・フラン（前年同期比2%増）の純収益を計上しました。大幅な変動があった項目の影響を除いた調整後ベースでは、収益は1%増加しました。これは、経常手数料収益の増加（前年同期比9%増）ならびにトランザクション・ベースおよびパフォーマンス・ベースの収益の増加（同2%増）によるものであったが、純利息収益の減少（同7%減）により一部相殺されました。

インベストメント・バンク部門は56億米ドル（前年同期比10%増）の純収益を計上しました。アルケゴスの影響を除いた調整後純収益は、21%増加しました。債券販売およびトレーディング部門の収益は前年同期比で4%減少し、アルケゴスの影響を除いた株式販売およびトレーディング部門の収益は5%⁹増加し、キャピタル・マーケット部門の収益は109%（2021年上半期のレバレッジド・ファイナンス部門の時価評価益および2020年上半期のレバレッジド・ファイナンス部門の時価評価損を除く¹⁰と93%）増加し、アドバイザリー部門の収益は2%増加しました。

2021年上半期の**新規純資産**は、2020年上半期の156億スイス・フランと比較して増加し、237億スイス・フ

ランでした。これは、スイス・ユニバーサル・バンク部門による 67 億スイス・フラン、インターナショナル・ウェルス・マネジメント部門による 69 億スイス・フランおよびアセット・マネジメント部門による 116 億スイス・フランの寄与によるものでしたが、アジア太平洋部門における純資産流出額 11 億スイス・フランによりわずかに相殺されました。

本資料はクレディ・スイス・グループが発表したメディアリリースの翻訳版（要旨）です。メディアリリースの正確な内容は、クレディ・スイス・グループの[ウェブサイト](#)に掲載されたオリジナル版をご参照ください。

* これらは、該当する場合、調整後の業績、大幅な変動があった項目による影響を除いた調整後の業績、ならびに大幅な変動があった項目およびアルケゴスによる影響を除いた調整後の業績を示しています。当グループの業績に含まれるこれらの調整後や利益を除外した一定の業績は非 GAAP の財務指標です。最も直接的に比較可能な米国 GAAP 指標との調整については本メディアリリースオリジナル版の別表をご参照下さい。

脚注

- 1 2020 年の FINMA の認可に基づく、1,036 億 1,400 万スイス・フランの中央銀行預金の一時的な除外を除く 2020 年第 2 四半期および 2020 年上半期のティア 1 レバレッジ比率。
- 2 基本的な業績またはパフォーマンスへの参照は、大幅な変動があった項目およびアルケゴス*を除いた調整後税引前利益をいいます。
- 3 GFG アライアンス、ブルーストーン、カテラは最大 23 億米ドルのエクスポージャーです。
- 4 90%超の回収は 2021 年 3 月 31 日時点での非注力分野のエクスポージャーの簿価最大 28 億米ドルを対象としています。
- 5 基本的な業績とは、大幅な変動があった項目およびアルケゴス*の影響を除いた調整後税引前利益をいいます。
- 6 基本的な業績とは、アルケゴス*の影響を除いた調整後税引前利益をいいます。
- 7 2021 年第 2 四半期の株式販売およびトレーディングの収益から、5 億 4,200 万米ドルのアルケゴスに関する損失を除きます。
- 8 2020 年第 2 四半期における 2 億 1,600 万米ドルの時価評価による利益を除きます。
- 9 2021 年上半期の株式販売およびトレーディング部門の収益からアルケゴスに関する損失 5 億 4,200 万米ドルを除きます。
- 10 2020 年上半期のレバレッジド・ファイナンス部門の時価評価損 7800 万米ドルおよび 2021 年上半期のレバレッジド・ファイナンス部門の時価評価益 900 万米ドルを除きます。